

昭和三十三年三月十七日(第三日)

第一回市議會議定例會議錄

昭和三十三年館山市議会才一回定例会會議録(才三旦)

一、昭和三十三年三月十七日午前十時館山市議会才一回定例会才三日正館山市役所分館會議室に招集

一出席議員(三十三名)

一 番	石 井 潔	二 番	高 橋 文 治
三 番	伊 勢 仙 之 助	四 番	小 浜 光 義
五 番	後 藤 ゆ き	六 番	秋 山 万 治
八 番	金 木 久 一	九 番	安 西 政 治
一 〇 番	田 中 祿 郎	一 一 番	脇 田 順 一
一 二 番	吉 田 勇 吉 郎	一 三 番	小 沢 太 助
一 四 番	中 村 良 五	一 五 番	小 谷 無 邊
一 六 番	田 村 喜 兵 衛	一 七 番	嶋 貢 壯 作
一 八 番	佐 久 間 為 次 郎	一 九 番	黒 川 佐 太 郎
二 〇 番	山 口 房 治	二 一 番	萩 生 田 七 郎

二番 小沢 惠太郎

二三番

福岡 保徳

二四番 山本 昇

二五番

松本 藤太郎

二六番 可世木 芳蔵

二七番

鈴木 孝

二九番 遠山 ヨネ子

三〇番

磯辺 周雄

三一番 大野 清五郎

三二番

望月 暉作

三三番 田中 忠蔵

三四番

飯田 義男

三五番 嶋田 繁

一欠席議員(二名)

七番 鈴木 市蔵

二八番

山口 康

一法方二四二一条による出席説明員

市 長

田村 利男

助 役

小土 武男

収入役代理

眞田 森吉

総務課長

克戸 貴

保險課長

唐沢貞太郎

商工水産課長

羽山房雄

送管書記長

渡辺 茨

建設課長

新井重助

農産統訖課長

吉田耕一

秘書課長

山谷潤昶

福祉事務所長

長谷川広治

厚生課長

神作啓次郎

戸籍課長

高木哲三

税務才一課長

山口 実

税務才二課長

伊藤幸太郎

診療所事務長

池田亮山

消防署長

安藤亀吉

警務員会教育長

工藤和乎

警務員会庶務課長

鵜沢貫寛

監査委員

奥 武夫

一本議会の事務局長書記および職員

事務局長

高梨青一

書

記

太田博雄

職

員

畑中弘敬

同

山口晴之

一昭和三十三年館山市議会第一回定例会議事日程(才三号)

昭和三十三年三月十七日午前十時開議

日程才一 報告才三号 昭和三十三年度三月例月検査報告

日程才二 通告による行政一般質問

日程才三 議案才二〇号乃至才二三号 質疑応答

一本日の会議に付した事件

日程才一 報告才三号 昭和三十三年度三月例月検査報告

日程才二 通告による行政一般質問

○議長(石井潔君)本日の上席議員数三十一名により才一回定例会才三日の会議を開きます。

○議長(石井潔君)本日の議事はお手許に配布の日程表により逐次上程いたします。

議案を配布させます。

(議案配布)

○議長(石井潔君)日程才一報告才三号を上程いたします。

(書記朗読)

報告才三号 昭和三十三年度三月例月検査報告

(監査委員 関武天君登壇)

○監査委員(関武男君)三月十三日に実施いたしました例月検査

の結果について報告申し上げます。

まず一般会計でございますが、支入におきまして市税の収入が八百六十四万余、税外支入が四百九十九万余となっております。市税につきましては、市民税が百九十九万、固定資産税が百十六万、たばこ消費税の一月分として百二十三万、二月ととなっております。税外支入におきましては、産業経済費のうち、分担金これは豊房地区の、団地開発整備事業の地元分担金でございますが、七十九万六千、入っております。その他、使用料、手数料が百二十八万、国庫支出金、これは金額が社会および労働施設費でございますが、二百二十二万九千、これは、主なるものでございます。市税におきまして、欠損額がでております。従来七万六千五百五十、計でておりまして、今、二月中に二十九万四千九百六十余、計上されております。これは、二十七年度の市民税、固定資産

税でございます。徴収猶了の執行停止の手續さにおきまして三年経過いたしましたのでここに欠損として計上いたしましたのでございます。市税の収入未済額が四千七百九十八万余二月末で固定資産税の納期が全部到来いたしましたので現在は市民税の特別徴収分の二百二十万月余が納期未到来で差引きますと正味の滞納額四千五百七十六万円となっております。

市税の徴収歩合でございますが二月末で三十二年度の現年度は七六・五％、繰越分が三四・二％、合計一まゝで七〇・七％となっております。これを前年度に比較いたしますと三十一年度におきまゝでは現年度が七五・一％、繰越分が二九・三％、合計一まゝで六四・五％となっております。前年度よりは徴収歩合が上昇しております。

つぎに支出でございますが款別の明細はつぎのページに表

記してございますがそのうちで大きなものは消防費に
おきまして消防車の機装代が三十五万円とております。
こいで先だつて購入いたしまして消防車の代金は全部支
払済でございます。つぎに土木費のうちに富見橋の修繕
費が三十五万円とております。そのほか富山港 船形
港の負担金として合計して百万円 なお都市計画費に
おきまして汐入橋の橋梁架設工事代として百万円支払
われております。

教育費のなかで西小學校の増築分として百五十四万円支
払われております。

社会および労働施設費のなかでと場の汚物貯溜槽の新設
工事として九万七千円とております。産業経済委員の
なかで農道の改修 林道の新設等では野尾岡田畑
等にそれぞれ七万五千円、十七万七千円、二十七万八千円支

出されております。又入支出差引きまして八百六十二万二千九百八月の残でございましてこのうち三百五十万月国民健康保険へ流用されております。市金庫の現在高は五百十二万二千九百八月となっております。

つぎに特別会計に移ります。公益債屋におきまして、貸付現在高が二百八万四千三百七十五月となっております。この内訳は船舶賃屋が百三十八万九千九百二十八月、富崎賃屋が六十九万四千四百五十五月でございす。

つぎに国民健康保険に移りますが、保険税の収入未済額が二千二百五十六万月余記載されております。納期の廻到来しないものが約三百八十万ありますので差引きますと正味の滞納が八百七十万余となります。

一般会計から三百五十万月流用を受けまして、なお市金庫の現在高が二百九十六万月余ありますので、当局に質問

一まゐつたところ月末にお医者さんへの支払のために一般
會計からさらに二百五十万流用してそれを月末に二百四十
万円余医者へ払ったのでございます。ところが市の金庫へ
落ちますのが翌月にずれまゐつたためにここに市金庫の
現在高としては月末にこれだけの数字が残つた次でござ
います。以上で報告の説明を終ります。

○議長(石井 翠君)本報告に對して御質疑等ございせんか。
○二番(高橋文治君)ただいま市説の欠損額の三十七万二千余月で
ございますがそれは徴収手續さしてから三年経つたから起
分さつたというふうなお言葉でございしますが私の考えは
違つてゐるかも知れませんが徴収手續さして五ヶ年と記憶
してありますがいずれにいたしましてもこの金はとれるも
のではないと思ひます。念のためお聞きたいと思ひます。
○税務第二課長(伊藤幸太郎君)ただいまのお話でございしますが

時刻によります年限はおおせの通り五ヶ年でございます
—か—先ほど申し上げました執行停止はいた—ま—た場合には三年経過後が時刻ということになつて^{の処分}おりますのでその
食違いかと思います。

〇七番(嶋貫壮作君)税金および税外支入の本年度あますところ
ろゆずかになつてゐるんですがこの二月末現在からこつちえ
入るべき額どのくらい見込んだらよろしいか。その見込額
をお知らせをお願いします。

〇税務オニ課長(伊藤幸太郎君)ただいまの御質問でございます
が(一)なるべく正確なものをねがいます」と呼ぶ者あり(三)
十二年度の支出納用鎖までの計画といた—ま—てハ五%の
一億三千万を目標に現在徴収に努力を—て—いるわけでございます。
本月までの数字といた—ま—ては先ほど監査の報告がございま
—たが三月十日現在に約二千二百万入つてございます。

ので二月不現在が一億八百万でございまして合計一まして（「お話中ですが五月不までには二月の不日からどのくらい入るかという額がわかればいい」と呼ぶ者あり）予定といった一ましては約二千万を目標に進めております。（「目標でなく目標はみんな入るが納税があるのかないのかその点をはっきりしてもらいたい」と呼ぶ者あり）大体二千万を目標に進めておりますのでできる限りその様に（「どのくらいでございます」ということと）と呼ぶ者あり）二千万とる考えでございす。

○七番（嶋貫壮作君）税外支入の方はこれだけですかまだ入るべきものがありますか あつたらその額をお、ーやっていたらだいたい。総計でよろ、うございます。なければないでいいです。

○総務課長（兒戸貴君）税外支入のこんごの支入の見込みにつきま

ーては調べまーてのちほど御報告いたーます。

○二七番(鳩貫仕作君)予算審議する関係がありますのでなろうことなりその審議に入る前にひとつお調べねがいたいと思ひいます。

○二八番(田中禄郎君)監査委員の方にお伺いいたーます。

市税の目税税の百四十五万三千という未納がございますがこれ明細にわかりまーたらなにが延滞ーてあるのか教えていただきとうございます。

○監査委員(関武天君)お答えいたーます。

都市計画税が百四十五万三千五百五十四円でございます。全部都市計画税でございます。このうち現年度が百十九万二千六百九十一円滞納繰越分が二十六万八百六十三円でございます。

○議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

（「異議な—」と呼ぶ者あり）

○議長（石井潔君）御異議な—と認めます。

よって報告はこいをもって終ります。

○議長（石井潔君）つづいて日程オニ通告による一般行政質問を議題
といたします。

かやて御通知申上げました通告締切りの三月十五日午前十
時までに通告のありました議員およびその順序はあ手
許に配布の通りでございます。

これより通告順により登壇の上御発言をねがいます。ニ
番議員高橋文治君御登壇ねがいます。

（高橋文治君登壇）

○ニ番（高橋文治君）私は市政運営に関—まして市長さんにお尋
ね—ます。

昭和二十九年の五月に周辺六ヶ村が八幡山市に合併いたしまして六ヶ村はたしか五ヶ年を樹立して当所の市会ならびに村会の議決を経て合併いたしましたのであります。ちやうと三十三年度は五ヶ年計画の最終の年であります。五ヶ年計画もある地已はすでに一年前に全計画を終えさらにはほかの事業をやっている地已もございます。ある地已はすでに計画も相当残っているのもございまして多少公平を欠いているような感じもあります。が、一か一市の財政関係もございまして、もう一つで、それは小さいとはいいたしまして九重地已におきましては三十三年度におきまして保育園の建設もしていただき道路も一路線改修していただいたのであります。九重地已として五ヶ年計画の一番重要なところの九重小学校の建築問題がまだ残っておりますのであります。先般一日も早く改修してもらいたいと

いう地民が市長さんならびに議長さん教育長さんに
 陳情いた—ま—たうであります。幸い市会におきま—て
 採択されたのであります。本年の予算を拝見いた—
 ますときに現在館山市で小学校の老朽校舎は船形と九重
 の二校と私は思います。九重小学校は先般陳情のとき
 紹介議員と—て御説明甲上げま—た通り大正十二年
 九月のあの大地震のため倒壊いた—ま—てすぐさ
 ま建築いた—ま—たうで本年でち—うと三十五年になり
 ますので従いま—て市内でも一番老朽校舎であり危
 険校舎であるのであります。三十三年度はせ—とも改築
 していただきたいと地民の市民は要望—てお—たので
 あります。予算を拝見いた—ますときに船形は計上
 してございますが九重は計上—てありま—せんので九重
 地民の市民は非常に失望—ているようなわけござ

いますので市の財政の關係もいろいろございまして。う
がどうか三十三年度はぜひともひとつこの危険校舍を
改築されるようにとくに市長さんに要望するものでご
ざいます。

オニ番目には教育に必要な小中学校の需用品なら
うに消耗品費が合併前と比較して一まゝで本年すでに
合併後四ヶ年になります。がまだ半額程度しかあり
ませんので学校当局は非常に經營に困っていること
は事実でございますのでこの点につきまして所信を
述べたいと思ひます。たが予算關係でありますので
予算審議の際に申し上げたいと思ひますのでこの点
御了承いたされます。

最後に教育長さんにおねがいいたしますのは同じ籠山
市に建つてあるところの小中学校の設備とかあるいは

修繕につきまゝて差別な取扱ひをせしめることは事実でございまして先般このことにつきまゝて私は教育長さんに質問いたしましてたところ教育長さんは同じ税金とてあるからして差別な取扱ひは絶対ないという御答弁でございましてたが私は二三九重小学校におきまして実例を挙げて教育長さんの御答弁をねがいたいと存じます。

まずオ一番に三十九年に合併いたしまして九重小学校の渡廊下翌年の九月と記憶しておりますが、つくる時分には資材がなかったために杉皮でやってあったのであります。台風のため杉皮はめくられて雨が非常にもっており早急に修繕してもらいたいということはその年からおわがいてあるわけで、かるに三十九年度もやってくれず三十一年度もやってくれず三十二年度のたか七月と記憶し

ておりますがようやく修繕していただいたのであります。修繕
してくれたことについては感謝いたしますが、一番に修
繕する際に持ってきたところの材料たるや、鎌山の初
稚園が移築するに付いていままでも使っておったんだらけ
の到底使用に堪えないものを持ってきてつくろというよう
なお話でございまして、ちよつとそのときに市長さんも
運動会でお世になりまして、なお教育委員会の庄司課
長さんもおいでになりましてみていただきまして、實際使用
に堪えないひどいものであったのであります。

私は教育長さんにあれでは非常に堪えないので新しいので
こーうえてくいと甲上げまして、ところ新しいのでこーうえて
やるという言葉があったのであります。ところが三ヶ月
経ちまして新しいんであります。一度使ったトタンでござ
います。がとにかく使用に堪えうろろのでこーうえていた

だいたいのであります。この点感謝いたします。ただ
その時开戸の上に一間の九尺の屋根がありまして生徒が
足を洗う、手を洗うにそこで雨に打たれないで洗うようにな
ってあります。が、それいも渡廊下と同じ日に台風でめく
られて雨が降ってあるわけなんです。が、それいも渡廊下を
こーらえるときにこーらえてくいとおねがいします。た
ころが予算がないというのでこーらえてくれないで現在
も雨がもる。外觀的にも玄関のすぐ右側でありますから
奥にみにくいのであります。この屋根のこーらえるのに
わずかにトタン十枚ほどで済むんですが九三斗になります
今日こーらえていただかない。なお九重の学校は雨がもる
というので三十一年度三十二年度に屋根の葺きかえをやっ
ていたみたいです。であります。やねのふき替えをやっ
ただく際にトイが回ってあったわけですがふき替えにつ

いてトイを取っ放しで今日そのトイがないのであります。
私はこゝを教育長さんにお尋ねいたしまして九重小
学校ばかりでなくほかにあるという事でございま
すが、よそにあるトイは別としてつけるべきものは当然つける
べきだと思います。なお窓ワクでございしますが
窓ワクは先ほど申し上げました通り本年三十五年経って
おりますのでガタガタになっておりまして、たび風が吹
けばガラスが吹とばされる危険状態になっております
ので、これも同時に修繕していただきたいということと
再三おねがいしております。かるにこの窓ワクもでき
ておりませんのみならず、お隣りの館野小学校他の
学校よりたゞ十年くらい遅く建った小学校でござい
ます。その学校の窓ワクは全部昨年取換えてしまっ
てあります。私の方はとり換えておりません。本年の予

算を拝見いたしますときに、学校の校舍修繕費は旧市は館山、北条、船形が載っており、六ヶ村の方では西岬の東校、西校、豊房と畑の学校だけが載っておりません。九重は当然修繕すべき箇所があるのに許さるべくないが、まうたこの点を考えても差別な取扱いをするといわざるを得ないのであります。このことにつまましてどうして三十三年度のこの学校の修繕費に許さるべくないか、その理由とこんごやってくるか、ないかはつきりしたところの了解のゆく御答弁を教育長さんにおねがいいたします。もうできなければできないでよろしくうございます。こっちは方法を請いますからやるとかやらないとかはつきりしていたでさうい。以上で私の質問を終わります。失礼いたします。

(市長 田村利男 君 登壇)

。市長(田村利男君)高橋議員に對して答弁申上げます。
一般市政運営に關しての御質問でございますが合併の
際樹立いたしまして五ヶ年計画につきましては財政の評
す限り忠実に実施してきたつもりでございます。一か
なばり當時の財政力は計画と比較しましてはるかに貧弱な財
政いけば赤字財政の市のものともし危機にひんした時代であ
りましてたゞで計画のすべては実施することができなかった
わけでございます。

五ヶ年計画にもいまして計画は財政力をはるかに実施した
計画であつたわけでございます。そういうわけで先ほども申
上げました通り實際には全部を實行するといふことはでき
なかつたことを遺憾に思ふ次第でございます。

つぎに市内の危険校舎の問題でございますがただいま果で
指定されまして危険校舎は船形小学校と九重小学校の二つ

でございます。このうち教育委員会で検討した結果船形
 かい方が危険度におさまって一層高いのがありまして、
 で三十三年度において船形の学校を改造することにいた
 まった。それで九重の学校はここで言明するわけには行き
 ません。つぎに回すことになったわけでございます。

ーかながらいたずらに九重の学校をあとにして船形の
 学校を先にするというえんを目的にやったわけでは決ま
 ないのでございます。この点御了解願いたいと思います。

四甲校舎は事業計画によりまして、たゞ三十四年か三十五年
 の計画だつたと思ひますが、私は先きに採上げまして、
 既に二年前に新築したようなわけでございます。

市は事業の緊急、軽重の度をよく考えまして、政策など実
 行いたりますので、かならずしも五年計画の年次のみに拘
 泥するということとはできませんので、この点を御了解願

がいたいと思つた次第でございます。

教育長に対する御質問は教育長から答弁させることにいたします。

○教育長(工藤和平君) 自席で矢礼させていただきます。

高橋議員に對するお答えをいたします。

小中学校の設備修繕等について新市と旧市の間に差別待遇があるんじゃないか、こういう御趣旨の御質問でございますが管内二十の小中学校のすべての修繕に關しましては、いわれは常にその緊急度と危険度というものを、この危険度と申しますのは県の指定するものでございます。それにのつて年間計画なうに年次計画を樹てそれを予算とにらみ合せて逐次実施に移してきたわけでございまして、その間に昨為的な差別待遇といったようなことは絶対にやらないつもりでございます。將來もやらないことを断言いたします。

たいと思います。なお挙げられまいた具体例につきま
してはごもっともでございますので新年度に建築技師を増
員ねがいましてこけらい破修理を急速に直したい。こうい
う考えをもっております。以上でございます。

○三番(高橋文治君)ただいまの御答弁で建築師を増員してこ
ーらえて下さるといふようなことで一たがそれではさらに
お尋ねしますが井戸の上の屋根も実際みにくい姿ささ
らしてあるわけでございますがそれとトイと窓ワクをも
ちろん建築技師がみておくでーようが痛んでいるのは私
は誇大にいうわけでは誤りありませんから事実いたんで
おりますので早急心にこーらえてくれるということであ
る。うございすな。

○市長(田村利男君)建築係の方でよく調査いたしまして必要があ
ればなおりたいと思います。

議長(石井潔君)つづいて二十五番議員松本藤太郎君御登壇
ねがいます。

(松本藤太郎君登壇)

二十五番(松本藤太郎君)私はオーストリアといつて昨年靖国
神社それから明治神宮の造営についての寄付につい
て市長さんにもつと尋ねたいと存じます。
これは奉賛会という名において果知事柴田等の名
におきまして各県下の市町村長に命令されてきた
わけでございます。当市におきまして市長田村利
男の名におきまして課員を通じて部落会長あるいは
邑長、町内会長を一室に集めましてこれらの寄付に対
する一戸七十円の割当てをしてたわけでございます。
この割当という言葉でなくして目標であるんだと
いうことになっております。当然それはさういふふ

うにならなくちゃいけないわけでありますが、実際の面といつては、これと似た町内会長、あるいは区長さんは、これを自分の区に持帰り、各戸に七、八月づつの割当てを實施してあるわけでございます。

また、今月は寄付の締切りの月で集まっております。はた、だちに市役所まで持ってきたというのを区長さんに連絡してある。このようなことが果していいものかどうか。

まず、いいか悪いかを、これから甲乙げたいのであります。が、地方財政法の廿四条の四には、地方公共団体は、他の地方公共団体は、個人に対して寄付の要請もしくは斡旋をしてはならないと、この規定であるわけでございます。また、地方公務員として、違反であることは、明々白々たるところであります。なお、逃るならば、憲法、その違反

ははっきりとしておるのであります。このようなことを地方自治体の市長がやっていいのかどうか、県の手前覚えをよくするためには、県知事の名においてまたかう止めを得ないということをやっておられるかどうか、こういう点についてどのように考えておられるかを尋ねまする次第でございます。

オニ矣でございますが、これは昨年度市庁舎建築の資金の積立の条例ができたわけでございます。本年に入りましてつい先々月ですが、婦人団体の要請により婦人会館建設の請願が議会に提出され、満場一致で採択とされておるこのようにして、わずかの間に大きな建物と申しますか、そういういったようなものが三つ出来たわけでございます。こいに対してまして本年度の予算をみますると、既に市庁舎に対してましてはさらに二千万を追加積立がされた。

婦人会館に對しましては百万円の市費を投じ、工費三百万で實現をみるように予算案はなっております。

でここで私は里見居城の復元資金の積立金は予算の上に載っておられないので市長さんはどういふふうに考えておられるのか、要するにこれは性格の問題が基礎になると思うのでございまして、このように質問の題をとらなければ、ございします。

庁舎や婦人会館、里見城とどのようにな市長さんは考えておられるか。

私は鑑山市を一軒の家にな例えてみますならば、庁舎はまず一軒の店の事務をとるところだ。婦人会館は一つ、書斎だ、里見の城は一番大事な金をとるところの店舗だ。しかもその重要な立派なウエイトを持ったものではないか、このように考えておられるわけでございします。

どこの主人が店のほうをほったらかしにしておいて自分の仕事をするとところや居間をきれいに金さかけるものは一人もおられないこのように考える。また三十二年年度の市長さんの施政方針には観光は重要な産業であると断じて国定公園指定に備えて里見城を観光面のセニターとするんだということを明らかにされてきたわけでございます。これを伝え聞きました市民は希望を持ちましてそうして商店街の整備となり改善となつて現われておるわけでございます。

大きな犠牲を払い借金をしてまでもその整備改善に努めてきておる。これは市政の伸長に盡心しておるわけでございます。にもかかわらず市長さんはただ条例を作つたというのみでいかにも条例を作つて一番最初の当初予算において一銭の積立も行わない。いかにも民間の努力を

に對し、まゝでもあまり積極性がないように私は思われ
ます。こういうことは条例だけを作つてあとはあなた任
せ、やるんならやりなさいというふうにとれる。これでは
一昨年昨年の市長さんの考えがどこえ行つてしまつたん
だということと疑わざるを得ないのであります。

ここで私は市長さんにお尋ねしたいことは庁舎の建
設といふ甲上げまゝたような考え方から里見居城
の復元いすれを先にするかいすれを先にした方が市民
に売られるかということとこれを大きな物に對しての性
格それからいろいろ負担金というものも出て参ります
けれども大筋としてはこのような点で市長さんにお尋
ねをいたいのであります。

つぎに才三桌といふまゝ市の將來の発展という
ことを考えないものは一人もございませぬ。

市当局をはじめわれわれ議員一同はただそれを念じて
あるわけでございます。また市民六万はどのようなに
鑑山市が発展して行くのか大いに期待をかけてあるわけ
でございます。

三十三年度の施政方針を本予算会議の当初にお伺いした
わけでございますが矢れかも知れませんが私は正直に自分
の感じを用いさせていただきますが経過報告を聞いて
あるように感ぜられた。というのは将来の発展性という
ものが欠けてあったということを知ったわけですが三十二
年度におきまして黒字になったといいますがそれは
首切りと事業をなかつたために黒字になった。なんら
私は賞賛に価するものではないと思うのでございます。な
るほど昨年より本年度の予算をみますときには非常に
よくなった面は多々ございます。これは十分認めますがこれ

とて一年限りのものでありまして――ぼりに――ぼった支入
これだけ――金がないといって右にいくら左にいくらという具
合にただ分けただこう考えざるを得ないのでございます。
また予算の各款説明のときに給与の説明をされた担当
課長は首切りによって金がいくらいくら浮いたんだとかあ
るいは新年度に三十三年度から三百五十万も黒字を上げて
ある。いかにもほめられようとしていっているようにとれる。
そういうことでは、館山市の将来の発展は絶対に期――得な
い。私はこのように考えるのでございます。

ここで考えられることは、支入をみまするにまだまだ数干
万のものが入ってくるのではないかというふうに考えるので
ございます。当ってあるか、当っておらないか知りませんが
そういうふうに考えさせられる。これとても市政計画とか
事業の計画というようなものが示されております。あと

らくは半途甲からコマ切小的につくられていくのではないか
このようなことでは最初甲上げまで通りぬけぬけ市
民は館山市の発展をいとおこさうと飛躍しようとい
う意欲が満々としてゐるわけでございますから市長さん
もここでいとおこすに心を尽して大きな将来への発展の基礎を
打立てていただく。決してないわけではなく市長さんにはあ
ると思います。そこでこの案をお示しぬがたい。以上三案
につきまゝお尋ねをいたします。

(市長田村利男君登壇)

○市長(田村利男君)松本議員に対する御答弁甲上げます。

靖国神社、明治神宮の寄付募集の案でございます。靖国
神社および明治神宮はそれぞれ奉賛会を全国的に結成
し、果市町村の長を個人の資格で役員に委嘱して募
金を開始した次第でございます。

千葉県におきましては七月下旬に各市町村の事務打合せ会
を開き館山市におきましては九月九日と九月十七日に関係
者の協議会を開きまして自主的募集を開始いたしました。
その際の会場の様子を見ると申し上げると市長が
こういうことをしてはいけないから皆さま方の代表のうち
でこういう発起人になっていただきたいということを申し上げ
ましたところ市長が個人でやれば、ちっとも差支えないこ
とであつて靖国神社の維持の分はわけわけの兄弟が眠っ
ているところなので競つてこの募金に賛成したというよう
な皆さま方の熱意が非常に高かつたことを記憶してお
ります。

募金目標は靖国神社六億七千万 明治神宮は五億九
千万でございます。ところが当市の現在の募金額は三千六万八
千八百八十円のみですので募集に要します経費は九百

六十月でございます。以上靖国神社 明治神宮についての御説明を終わります。

つぎに市庁舎と里見城婦人会館の性格を問うという御質問でございます。で最終的の結論を申し上げますと市庁舎は里見城よりも先に建てなければいけないと存じます。が本年度の予算にあきまゝでは積立金一千万を盛ったわけでございます。市庁舎は市民の利便と市役所の機能と十分に發揮するために重要な施設のひとつと考えます。これが完全あるいは不完全のせひは他言を要しないものであります。せひとも早期に完成いたく思っております。わけでございます。そのためできる限り資金の蓄積を行って行きたいと思つて本年もまた千方を積立てたような決裁でございます。

オニ番目としまして里見氏の居城復元資金の積立につ

まゝまゝではあくまでも復元計画の推進ということが主
な点でありまして私はいつも申しますがまず市が熱意を
示し、まして一般市民の協力がなくては望見城の復元は期
得ないわけであります。従いましてまず市民の協力と地
区住民の熱意の具体化をこんど一層おねがいする次第でござ
います。地元がこの積立金のみによつて復元を行うと
するものではございせん。故に財政の都合で当初予
算に積立金は計上しなかつたわけでもございせん。が昭
和三十二年におきまして時期をみて積立金の着
手とする考えをしておるわけでもございせん。

オ三番目として婦人会館はたんに婦人団体の
みに止まらず、完成の暁には本市の文化活動の中心
となる相当多面的な利用価値を持つものと考えら
れます。しかも総工費の三分の二の財源を会独自の

力によりまして負担するものでありまして昭和三十三年度に実施することになりたいわけでございます。以上三々御答弁申し上げます。

最後に市の将来の発展を基盤を何に求めるかという点でございしますが、当市の形態は中心地はいゆる商業都市であります。都市形態を形成するものの以外の地域があまり広大であり農村地にもきわめて広範囲にわたっております。将来何を基盤にして市の発展を図るかということは簡単に断定することが不可能でございしますが、発展の基礎はあくまで産業の振興であり、そのためには道路の整備をはじめ土木事業に重点をおくことは市発展の基礎固めだと意図している次第でございします。さらにまた人的資源かん養のために青少年教育に重点

を置きまゝて教育方面に一層の力を注ぎたいと存ず
るわけでございます。観光事業はあくまで産業の
一環と考えております。従いまゝてあらゆる力を産
業方面に傾注いたしまして産業と観光両立できる
ようにこんご努力したいと考えてございます。

○三五番(松本藤太郎君)寄付行為につきまゝて市長さん
は個人の名においてやるのならば差支えないという
ことを聞いたのです。がそのようにやればよかつた。

ところが館山市長田村利男となつておるここに問
題がある。個人であるならば役所の課長さんを使
つて部長さんや町内会長を集めた。これはわが社会党
におきまゝしてこの問題は嚴重に慎重に審議を
した問題ではございますが要するに国民感情 市民感
情靖国神社の霊ということも市長さんにおつちやう

れまゝたけいどもわけわけいよく承知してある。ある
けれどもそれだからといってそのような自益強盜のよう
なことをやっていたいか、そういうことは市民のなかに非常
に出てある。市長さんがそういう募金なんかやっていたい
のかということが出てある。このこと自体がひとつは市
行政に対する不満となり不平となり、これが市発展
のために大いに阻害するものだと思ふ、その意味にあ
いて国民感情、市民感情があるけれども、ここで私はあ
えて市長さんはこんごのようなものがきたときには断
固知事であらうと何んであらうと他の団体にやらせ
るということとを約束ぬがいたい。

いまひとつは里見城の更でございしますが市長さんは市
庁舎の方が先だとあーやういふ、たが私は里見城の方
がうんと金がかかって大変だというのならいざ知らず、

市庁舎は八千万も九千万もかかる、一かもの半分は借金お
しようという。里見の方はわずか一千万でできる。できた
らそれによって固定公園がすぐにも正式に指定される
だろうと思います。そうして南安房の不当の扱
いになると思っている。それによって宿屋とか商店
とかばかりでない。それにつながる農村もどんどん伸びる。
漢村はなおさらのこと。市全体のためにこれをやってあ
る寄付はどうかこうとかいうことはそのつぎのことな
んで私はそれを申し上げてゐるんです。でありますから先だ
ということについては私は里見城の方が先でなければな
らないという考えを持っております。

もうひとつは三十三年度において追加更正によって積立
てを行うということと復元計画の推進とそれから積極
的に関るということを確認したいと思ひます。

○市長(田村利男君) 先に百万円計上してありますから市民各位の絶大なる御協力があればあるいは市庁舎より先に建つことになるかも知れません。

つぎに市の行政を勘案いたしましてできますならば追加予算として里見城復元積立を行いたいと存じます。オ三英といたしまして靖国神社等のことにつきましてはこんごいろいろ考究して処置したいと思ひます。

○三五番(松本藤太郎君) 大体一部不満の点はございます。が了承いたします。ただオ三英目の産業観光の面にこんご重点を置いてやうて行くとこれが具体的な関係が述べてありませんがひとつ大要断をもつて計画を進められることを希望いたします。

○二七番(嶋貫壮作君) 市長さんはただいま里見城復元に対して追加かなんかであるということとを約束なされたよ

うに思いますが、そうでありますか。

○市長(田村利男君)その通りでございます。

○議長(石井 潔君)つづいて三番議員伊勢仙之助君御登壇ねがいます。

○三番(伊勢仙之助君)緊急質問の形のようにして一項目だけつけくわえていただきたいという希望なんですがお諮りねがいたいと思います。

勤務評定のことについて教育長にお尋ねいたしたいと思ひます。

○議長(石井 潔君)ただいま三番議員から質問通告に追加して勤務評定の件について緊急質問の形をとるという甲申がございましてたがこれをいかが取計らいますか一応お諮りいたします。(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議ございませんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)それでは御異議ないと認めまして三番議員の要求を承認することにしたります。

(伊勢仙之助君登壇)

○三番(伊勢仙之助君)私の質問のオ一氏は教育費の前年と今年度の比較の問題がありますがオニ氏といたしまして館山市の住民構成の問題オ三氏といたしまして御承認を得まして勤務評定の問題につきまして御質問したいと思ひます。

私の質問の要旨は市長の施政方針に大体限定して質問したいと思ひます。予算の細かい内容についてはこれから予算の審議に当って質問いたしたいと思ひます。ここでの質問は主として市長の施政方針に

対する質問というふうに御解釈がいたいのであります。
まず第一点の問題でありますが三十三年度の鎌山市
の総予算は前年度に對しまして一千百九十四万一千円の
増加というふうな形で計上されてきておるのであります。
各予算の總体的のものをみますとほとんどが増額
されたというふうになっておるんですがそのなかにあ
ってただ教育の予算というものが圧縮されておる。
百五十四万程度のものが少なくなっている。市長は施政
方針のなかにおいて特殊の市費を有する予算内容
からすればかかる増減の生ずるのは当然の現象であ
りますとは、さりいってあるのでありますがこの特
殊の市費というものは一体何を指して特殊の市費が
あるということがいわれるのであります。どうか、何
のために教育費そのものが總体の予算のワクのな

かで今年度だけはシワ寄せを受けただかというこの点についてとくに特殊の市費という点について市長の正確な御答弁をゆがいたいと思つてあります。

義務教育という名のもとに実施されている教育が国の財政政策のまずい点から地方財政に大きな負担をかけたおるといふ事實はまゝ、たゞ現在の地方自治体の財政というものを教育の面に大きく廻まわつておつて、四苦八苦しておるといふことは皆さんすでに御承知のことであらうと思ひます。そのまゝいふ予算のなかですべてを教育にやるといふわけではないのでありまして、もちろんまゝいふ予算のワケ内におさまつてできるだけ調整して学校の施設の面、予算の款項目でいいますと、営繕費、こいの点について、現在、鎌山市の現態がどうであるかと申しますと、学校の営繕費さらに施設

の面までもPTAに依存してあるという形がでてお
るこれは果して教育委員会自体が行うのかあるい
はPTAが教育そのものを行うのか非常に教育の
運営ということについて大きな問題があると私は考
えるのであります。

PTAの活発な運動 結構であります。ところがこれ
を行きすぎますと教育の内容面まで立いたって混乱
をきたすではないかというような憂うべき点もなき
にしもあらずと思ひます。とくに六村が合併されてま
いて生じましたところの教育施設のアンバランスという
問題がありますがいまだちに全部替えるという
ことは問題があります。うけれども私たち市内の
二十数校の学校を回ってみまうとくに小中学校の施設
においては旧市内と旧村との施設の面で相当のアンバラ

あるということは考えられるのであります。この点について教育費が圧縮されたということとはとくに営繕費のような点になってみますと幼稚園、小学校、中学校、公民館、青年学級、図書館、社会教育、こういうような項目の営繕費は大体前年度と比較すると七百五十万程度、も減額となつておるのであります。これは数字上では七百五十万という形でありましたが、實質的に内容をみまゝとしたときにとくに中学校の営繕費というものをみまゝした場合に小学校が四百六十七万八千、中学校が五百八十四万二千、合計して一千五十二万月というものが減額されておるのであります。こういうふうな一千万月からにおよぶ営繕費というものを減額して果して市内の教育の施設が完全にできるかどうか、この点において大きな疑問があると思ふのであります。もちろんこれには

いわゆる特殊な市費ということがあつてこういう事態が生じたものであらうと思ひますがこの点についてはとくに市長さんにはつきりと御答弁ねがひたいと思うのであります。

い学校の改築については船形がひとつ、甲の貯水池の設置がひとつ、婦人会館の建設がひとつ、そのほかに修繕費として総花的に盛られてゐるけれどもやはり学校の施設というものは適当な修繕よりもやはり基本的な改築をするとか一べし直したう相当期間やらない。一校は多少の犠牲を受けてもひとつのものだけは免れて行くという方向に持つていった方がいいんではないかと考へてゐるのであります。まづここ数年間は旧村との学校施設のアンバランスを直すという問題がスミクでてありますので教育の予算については前年

度程度の予算というものを組まなければ改善され
て行かないというふうに考えておるのであります。
重ねて申し上げますが、特殊の市費を有する予算のた
めに教育費を圧縮しなければならぬという原因
を市長さんに具体的に明確に御説明ねがいたいと思
います。

オ＝莫の鑑山市の住民構成の問題であります。

これは市長さんの施政方針のなかにこの莫が明確で
ないために御質問申上げるわけであります。鑑山
市の住民の構成、中小企業、農民、漁民、勤労者その他
いろいろの階層があると思ひます。これらの住民の構成
というものを予算編成について当然考えられるべき
重要な問題ではなからうかと思ふのであります。
われわれ議員といたしましても鑑山市の住民の構成

がどのようななっているかという点については相当関心を持ってありますが遺憾ながら正確なデーターというものを持っておりません。この点について予算審議の上にも相当支障があるのであります。これらについて市長さんが市内の各階層の住民をどうして掌握なされたか、また予算編成上についてこういう住民構成と予算のバランスというような点をどういうふうにお考えになっておつくりになられたか、この点をばつくりと御答弁をお願いします。

オミスの教職員に対する勤務評定の問題であります。最近新聞紙上等におきましても皆さんすでに御承知の通り勤務評定という問題が大きくクローズアップされてきております。政府の意図するところはどこにあるかいろいろ問題があらうかと思ひます。ただ私た

ちが市民の一員として考えますことは教職員の人たちが拳、て反対を——ているのに勤務評定を法律化せうとするところに問題があるわけなんですが、こういう教職員との間に混乱を起してまでも勤務評定を実施するんだという考え方も、ちろんこの実施については法律化されさらに果の教育委員会から、館山市の委員会に、こういうふうな形で実施せよというふうなことが、くると、思います。その場合において、館山市の委員会は果してどのような措置をなされるか、仮定の問題について御質問申上げません。が、現在教育長さんがこの勤務評定実施に、関してどのような考え方を、持っていて、いら、やるか、という点についてのみお尋ねしたいと思ひます。

以上三失に、わたり、まして市長に二失、教育長に一失、御質問申上げ、まして他の質問を、打切りたいと思ひます。

(市長田村利男君登壇)

市長(田村利男君)伊勢議員にお答え申し上げます。

百何十万の減少でございますが、たゞかに減少でございます。それは二甲と西の学校の二つの新築工事費が減少になったものでございまして、二つ合計いたしますと一千二百二十五万が去年の工事費でございました。今年船形小学校へ四百六十万計上いたしまして、その差額は七百六十五万円が工事費の減少というわけでございますが、七百六十五万円減少したにもかかわらず、実質的には百五十四万円ですが、結局六百万をPTAの援助とかいうことでいつも問題になっておりますが、本年は需用費を二割増額してあります。従いまして工事費は船形小学校だけに止めました。需用費におきまして五百何十万というようなものが回されていくものと御解

叔ねがいたいと存じます。

つぎに予算編成につきまゝして住民の構成を考慮したかというわけでございしますが本市の住民構成につきまゝでは昭和三十年十月実施されました国勢調査に基くものが唯一の資料でございまして予算の編成に当りまゝしては十分これらの資料を参考としたわけでございす。ただ勤労者の分類につきまゝでは数と把握してはいます。が予算面では主として産業分類的に考慮してあります。で勤労者階層としての取扱いについては文化厚生施設委託料としてとくに六万円を計上したわけでございす。

参考には甲上げますが本市の人口別を申上げますと農林業が一萬五人、水産業が二千七百七十一人、主として販売が六千円、運輸通信業が一千五百四十三人、サービス業が三千八百七十七人、公務員が千八百七十四人、その他一千七百七十四人

というわけでございます。いわゆる勤労者とみられますものは千八人でございます。これらの納税義務者は六千五十九人すなわち数字から推定いたしまして約七千人程度が納税義務者ではないかと首肯いたします。これらのものの市民税額は約一千百八十万円でございます。市民税の総額の約五十八%を占めております。一か一ながらこの五十八%のなかには倒えて申上げますと個人的にいうちやいけません。望月君のような商業者の社長さんも勤労者として入っております。商業法人会社の社長も全部含まれているわけでございます。

以上簡単に御答弁申し上げます。

○三番(伊勢仙之助君)オースの教育費のかわり……

先ほど高橋さんの御答弁のなかにもありましたが、危険校舎は船形と九重と二つしかないというふうな市

長さんの考え方知っておるけれども皆んなに発表すると
呉合が悪いということとは私は善意に解釈しているんですが
危険校舎はたんに船形、九重のみではないということと
皆さんよく知っておると思うのであります。そういう点で
危険校舎は船形、九重だけではない。そのほかにも旧
村には多数の危険校舎言葉の上でいろいろ問題があり
ますが相当あるのであります。この問題についてい
中学校のことに關すると二十万圓からの工事費を去年
建ったからことーはその点ではないから予算上からみ
れば差引きで七百七十五万圓の減だからいいんだとい
うことでありますけれども私たちが旧村との關係で常に頭を悩ま
すんですが旧村關係の學校施設が非常に市内のものと
比べて均衡がとれていないということが考えられるん
です。この問題については市長さんも今後十分お考えにな

てあとは予算審議の上で申上げまして一応了承します。が
オニ島の住民構成の問題につきましても市長さんは私の
質問のポイントを外しているような考え方をあります。私
は住民の構成によってどういうふうに税金が上って参る
のか勤労者のことを聞いておるわけでもありません。税金
をどここの階層が一番多く納めるかということとはも
ちろん必要であります。そういうことは私の聞く
質問の要旨ではありません。税金を多くとったのでその
地域に多く税金を配分するということは理屈かも知
れませんが市の行政の全機からみてそういう形に行かな
い場合があります。税金を多く納めたのでその分だけ
よこせという考え方は地方行政を行う上においてどうかと
思う点があります。税金を納めないけれども困るところ
にはやはりそれだけの施設をしてやらなければいけ

ないんだという考え方で税金のことは聞いておりませ
んー勤労者がどうのこうのといいますが、勤労者だけの
問題も聞いてあるわけではないのであります。私の意
図するところは農民、漁民、中小企業、その他各層に対
て予算とのバランスをどういうふうにお考えになったか
あるいはこれらの住民の意図というものとどういう形で
把握されてこの予算編成上どういふ点かという点に
問題点があるわけでありますがいままでのところ市
長さんも非常につかみどころのないような答弁を
しなくちゃならないので大変お困りのことと思いま
すのでこの点については予算審議の際また御
質疑申上げましてここで一応打ち切りたいと思いま
す。市長(田村利男君)果て指定がいま一危険校舎は二つあり
ません。ただー神戸小学校とか各所に古くなった校

合はあるけれども国庫補助対象になる学校は二つしかないということとを申し上げます。

○三番(伊勢仙之助君)この二つだけをことーやりたいからそういう形が打出さいるんで国の予算、県の予算というものは二つのもの^{ちやうど}だけーかないんだというふうに解さなければその危険度の度合というものを序列をつけてみればわかるのーかないので国の予算というものを県の予算のからみ合いが二つをやるだけの範囲ーかないというふうに考えていると市長さんこれは間違っているかも知れませんが、^{さう}館山に悪いのが五つも六つもあるから全部くれるかというところには無理じゃないかと思うんですが、その点了解いたしております。

○教育長(工藤和平君)教職員の勤務評定についてお答えいた

います。

この問題は愛媛県の場合は必要以上にトラブルを巻起してそれが今日の問題になっているように思うのであります。その問題点は実施せんとする内容が揃わないんじゃないか、こういうところにあるうかと思ひますが御承知のようにこれを計画するのは都道府県の任命権者である教育委員会でございます。最初文部省が画一的に決めまして地方へ流して実施せんとするような気構えでありましたために順序が違ふんじゃないか。実施すべき都道府県において決めるのが本当じゃないかといふのでこの間にも問題があつたように記憶しております。

鎌山市の場合はやはり地方の実情に即してこれを実施すべきものと、こういう考えを持っておりますが問題の内容からつぎましては教職員の研修でありますとか実

際の質を向上せしめるといったようなために用いられる勤務評定でありますならばこれは実施すべきものとかように考えております。

○議長(石井潔君)これはもちまして午前の部を終りまして休憩に入りたいと思いますが午後一時まで休憩いたしまして一時再用ということにいたしたいと思います。

午前十一時五十分休憩

午後一時五十分開議

○議長(石井潔君)午後のお席議員数三十名 これより休憩前に引続き会議を開きます。

○議長(石井潔君)五番議員後藤ゆき君御登壇をお願いします。

(後藤ゆき君登壇)

の五番(後藤ゆき君)印刷にもございますように売春禁止
法がこの三月一ぱいで準備期間を終りましたとして四月一日から
実施されて結局売春は禁止されることになるのでご
でいます。

御承知の通り自分も婦人相談員の一人として当市にお
りますものでこの問題についてぜひ市の当局者の御協力
をおねがいしたいと思ひますので申上げるのでございま
す。昨日の三月十五日付の広報のなかに鑑山の警察寮か
らの御説明と市民に対する協力を求める記事が出て
おると思ひます。私もその協議会に参加していかん
たら鑑山市の売春を禁止することができるか。またこれ
に対する対策をどうしたらよいかということを一ぺん協
議会のなかに入れていただいたのでございます。

鑑山市はいままで赤山といっております。あつてこれが純赤

線として指定されまして二月一ぱいで廃業するようになっていることに指令が参りまして三月の五日付で大体廃業してあります。けれども市内の状況を見ますとあとありますところ十五日でございますのにいまだにその業者は約五十名以上あります。それに従っております従業婦が約百名まだ留ってあるような状態でございましてこの後十五日間に果してこの法律の適用を受けずに転業廃業ができるかということを懸念してあるものでございます。警察の方でも売春事犯特別捜査班というのを設けて四月一日から赤線は廃業してありますので青線に向って相当取締りも徹底的にすることとは思われますがこの四月一日からという境目に釜山へ漁船が入港という時期に入りまして四月から夏へかけても、ともこうもた業者が發展するときにありましてこの防止法が破れやすい時期でござい

ますのでぜひこれは警察だけではなく結局鑑山市
民が受ける問題でございますので市当局者もぜひ御協
力下さいまして売春を禁止する方法の力をお助け下さ
ることをおねがいしたいのでございますが警察はその
禁止をいくら嚴重にいたしませんがまた更生する売春
婦を私人がいくら相談にあずかりますがよく知れた
ものでございましてどうぞ市民全体において鑑山市
から売春を一層し、またそれに伴い市民が多分心配し
ていることでございますが痴漢などの問題が起ると存じます。
それ而起ってから飼に合わない。市の教育委員会の方でも
御心配のことと存じます。業者の方はどうかしてねば
ろうとするー売春婦の方はもぐつてーまうとする。こ
ういう問題にあきまして痴漢の問題が起らない以前に
市の各団体が市が中心になりまして対策を考えていた

だきたい。

教育委員会あるいは学校教育の上に社会教育の上にそれら各家庭において各種団体において全部協力まゝでそういうことの起りませんように未然に防ぐために各種団体との協議会的なものを市を中心でおつくりぬがいまして、鎌山市からこゝろの問題が起らないようにして観光都市として早く更生いたしますように考えをぬがいたいということとを考えまゝでぜひ御協力をぬがう次第でございます。

(市長田村利男君登壇)

○市長(田村利男君)後藤議員に御答弁申し上げます。

売春の問題は非常に画期的な大きな問題でございます。して売春活職問題など起すほど国家でも相当な力を入れて研究している問題でございます。たが四月一日から

全面的禁止という法律でございますのでこれは、
市だけでなく関係各機関たとえば警察署とか保健
所とか、または市教育委員会とくに社会教育当該団体
である婦人団体その他諸団体が一致協力いたしまして
報道関係者の御協力を得まして御意見に添うよう
努力を尽く考えておりますのでいずれその機会を早く
持ちたいと存しております。

○議長(石井環君) つづいて二十六番議員可世木茅蔵君御登壇をお願いします。

(可世木茅蔵君登壇)

○二十六番(可世木茅蔵君) 牛舎の改善についてであります。果の
農業経営は全農家戸数の三割が農家経済だといてく
農家でありましてあとの割が零細農家であるという
ことを農林省がいつておりましてそれが畜産を加味し

た農業でなければ将来はならないという建前になっているのであります。房州もいままでは畜産を昔からやっておりますのでありますけれどもほとんど鶏のように副業の考えであります。が産業といつては本当の農家に つぐ重要な産業であります。こんどは畜産によって農家が経営していかなきゃならぬ。半分百姓で半分が乳牛でなければならぬ。そうしますならば農家が常時牛乳をばるのには三頭飼育して行かなきゃならぬことになります。それで三頭の牛で牛乳を休まず一ぼって月々の収入を得て行くのであります。ところが困ったことにはその牛乳が昔からあまりいい牛乳でない。非常に汚ないりで最悪は東京都からやまーくいわれまして東京に搬入させないというような議論が時々起つてまして、館山保健所を困らせておるのであ

ります。が昨年また東京でやまーくいわれまーたので鎌
山保健所で思切つて嚴重な検査をーまーてーcccの中に
細菌が四百万以上の牛乳は搾乳停止処分をやったわけなん
であります。それがために乳価が非常に安くなりまー
て農家經營が困難になるような状態であります。そ
の細菌の数の多いのは何に原因するかといひますと房
州は昔から牛乳の畜産でなく飼牛を主にやっております
まーて牛を売ることにばかり専念してあるので牛舎を
よくすると牛が良くできないという封建的な頭を持っ
ておりまーて牛舎は全然お構いなくてほとんど現在で
も私らが住診に行きまーても頭のつかえるような牛
舎で下はドブ田に入るような糞尿の~~糞~~舎が多いのであ
ります。その牛舎でーぼる牛乳ですからそんなきれい
なはずはないのであります。がその~~糞~~舎の改造がなかなか

できないので細菌数の多い原因はどこにありますかといひますと厩舎が汚ないせいでありますが、府州でない君津方面の畜産地はあまり畜産にはあまり熱心でないものでありますけれども、最近乳牛を入れてありますので牛舎が新しく建てたい。それで比較的牛乳の細菌が少なくないので評判がいいのでありますが、府州でもその厩舎の改築に乗りだしてはどうかといわれまして最近まで本市でも牛舎の改善ということで牛小屋の破れた所を修理する。結局鶏小屋でも直すような恰好の修繕方法であり効果は上っていないのであります。それでこんごは畜産は副業でなく本業でこれを普通の百姓と両立させて行かなきゃならぬというので考えてみますときに牛を年中三頭おくには十八坪くらいの方舎が必要なのであります。その工事が約三十万円以上かかりますので私の

希望するところは、この十八坪の牛舎を工事三十万円と基準を置きまして五年計画ぐらいての三十万円の借入金の利子補給で、錦山、北条、那古、船形六ヶ村の十ヶ所に一軒ずつのモデル牛舎をつくって、そして各市から視察にきたとき、そこに案内—かつまた畜産視察にくる人も、そこに案内—てみせるような立派な衛生的な牛舎をつくりまして、モデルにして、その付近の牛舎の改善をするのに資料として、市で利子補給をやっていたら、たい。このねがいがあります。

その牛舎は条件として、ふだん牛舎を清潔にしておくことと視察にきたときには拒絶—ないこと、その牛舎を建設するには一定の方針で市の設計案を入れるという条件のもとにやっていたら、たい。

以上で畜産振興上牛舎改善は急務であると思います。

のでせん本年度の予算に計上していただきたいこととお
ねがいする次第であります。

終りにいふとつおねがいすることは畜産奨励費
が年々減額されておりますが現今の畜産は副業でな
いので本業になって参っておりますので、ゆゑに御留意
ねがいまして重畜産業の畜産を萎縮させないよう
に牛を移さないようにお考え直していただきましてこん
畜産奨励というものに力を注いでいただきたいと思ひ
ます。これは私の声ばかりではない。牛がもうくなく声
でありますのでよろしく市長さんにおねがいする次
才でございます。

(市長 田村利男 君 登壇)

市長(田村利男君)可世本議員にお答え申し上げます。

御質問の牛舎改善 利子補助についてでございますが

昨年もそうでございます。だが本年も本市の農業経営の重要性から勘えまして県の実施要項に基づき農業振興生産資金利子補給交付金として計上してこれが改善指導に努めて行きたいと思つております。ただいま各部落に戸つつモデルというお話でございます。それが現在のところ利子補給を交付したいと考えております。わけでございます。

なお飼料の改善を行い酪農経営の振興を図りたいところのように考えているわけでございます。

以上御質問にお答えいたします。

議長(石井潔君) つづいて三十五番議員嶋田繁君御登壇をお願いします。

(嶋田 繁君 登壇)

三十五番(嶋田 繁君) 私はまず人件費について質問したいと

思います。

人件費は表によってよくわかります通り特別会計と一般会計両方を合計してみますと、廿六年十月の三十三年度の総額が約一億二千万とこういうふうになっておりまして、これを前年度に比較してみますと一千六十万円の増となつてゐる。——これも一般会計にあつては先日の説明によりまして、総予算の四〇%に相当するというわけでございまして、なおこれは年々増高するところ、こういうふうにみなければいけないと思う。これは国家公務員に準じていることです。から万止むを得ません。これが対策というものについて、でも得る限りの考慮を払っていた、だくことが必要じゃないかと考えます。ひとつは、そう大きな摩擦を認め、限りは退職初、ううてもいい。またこれは当然であると思ひ

ます。もうひとつは計算器等機械を利用することによつて人手を省くという体制に持つて行つたらどうかと思つて予算をみますと宛名印刷器というものを本年度保険課に購入を予定されてゐる。こういう説明を聞きます。たがこれは誠に結構なことでありましてぜひういふ機械の力をもつて人手を省くというような方向へ持つて行くことが必要じゃなかろうか。自然退職のあとも補充のようなものを差控えてもそういう体制にこれを持つていってもらいたい。これについては習志野市あたりは相当にこういう方向へ努力されてゐる。非常にうまくいつてゐるということもきいておりますのでそういうところにはよく視察なんかをやつていただきましてこの方向へと導いて行つてもらいたい。こういうことが必要じゃないかと考えております。

もうひとつはやはりこれに関連——まゝて事務機構の再編成ということが考えられます。現行の事務組織は縦の組織であつて横えとの関連性が欠けてあるんじゃないやなからうかといううらみがあるように考えられます。例えば配給関係とか住民登録とか戸籍関係等の横へとの連携をもうひとつ図つて窓口一本化して行くということになりましたと市民の利便、経済的の効果も非常に生じてくる。こういうふうに考えられます。余剰の事務費は重実的の他の事業へとこれを配分して行くこともできる——人員配置の適正も得られるということになりました。こんでこういう方向へと導いて行くことが当然じゃないやなからうかと痛切に感ずるものであります。これにつきまゝての市長の御見解果していかん。これが一実であります。

つゞは健康保険についてであります。先般、市長の施政方針というものをみますと、かくも多額の健康保険というものが計上せられておりますにもかかわらず、国民健康保険予算四千二百三十六万円を上程いたし、まゝたというわけであります。これを消防費についてみますと、市長はこのべておらゐる。

高度の消防技術と施設の拡充と相まって、火災に対する市民の被害を最少限度に止め、安全を期する考えであります。と抱負を述べておらゐる。ところがこの健康保険につきまゝでは、ただこれだけを確保計上した、あまり関心が少ない。また市民が非常にこれに関心を寄せておる現在からみまゝでも、もっと市長は努力していくのが、当り前じゃないか。こう考えるのであります。

保険料の総額は二千八百八万これだけとっております。とることになっております。市民税を比較してみますと、市民税のそれは二千四百三十万すなわち三百七十八万保険料の方は多い。一かもしれを納めるところの人たちは市民税を納める数の六〇％に相当してある。一からばこの保険料を納める人は非常に少なくて、市民税として比較をしますと少なくてかつ多額のものを支払うてありますからいかにかで苦しいかということでははつきりわかるうと思ひます。

それからさらに市民税は課税対象であるところの所得税が減少してあり例え率は百分の十六が百分の十六、五にいく分が上ったといひましてもなおかつ軽減の一途をたどっており三十三年度のそれは三十三年度に比しまして二百六十四万円の減で一かるに保険の方をみま

すと前年度の予算に比し、まして三百四十九万円の増となつてゐる。―かも知れは一般会計から三百万の繰出―を引いてなにかつこれだけの増となつてゐる。さらに受診率は年々増高の傾向にあつて毎年二・%づつふえていく。こういうような恰好にあるんでございます。加えて改正法が施行せられますと一桌当りの単価がグッと上つてきますのでさらにこれに増高をきたしていくというやうな非常に苦しい破目に追詰められて行くというやうなことが痛切に考えられます。

さらにこんどは滞納の方をみますと三十一年度の二月末におけるところの滞納額は七百七十万円である。現年度におきましては三十三年の二月末におけるものは約八百三十五万の滞納を生じてゐる。さうして徴収率におきましては三十一年度は八五・六%の徴収率になつ

てある。ところが三十二年度は八六、二%徴収率は上昇
 しているにもかかわらず滞納が多くなつて行つてある。
 こういう現象になつてきています。これは保険料が格段
 に上がつていますのでこう一たことから考えまゝて
 も保険料をだんだん伸ばしていくことは危険になつて
 くる。こんなふうを考えられますのでこう一た情勢
 にあつてこの対策になんら手を打つてないといふこ
 とは実に嘆かわしいことであると思つて存するのであります。
 まずこれが対策といつてはいろいろございませう。
 けれども私の考えますところによりますと滞納整理
 に全力を盡す。これは当然の話でございます。市長は
 先般私の質問に對して二名か三名の人を入れて充実に
 たいといつてありますけれどもこれはおそろく確を
 二、三名入れてあるように承知しております。あゝろ

人員配置に一段の工夫を加えまして緩急よろしきを通いてこれが充實を圖るべきであると考えらるものであります。なおまた過去におきまして税務才ニ課が非常な成績を上げておるといふこともこれも適正な人員配置からだろうと考えますに、よってぜひ市長はここに思いをおよぼしていただいて保険課の充實ということに力を入れてもらいたい。

過日も質問いたしましてたが医療扶助を受けらるものと被保険者から除外する。これは市民税の条例の条項からみまゝたゞに地方税の免除ということとはできると思ひます。地方税の免除ができますとそれは当然民生関係に移すことができます。こういうふうに断定しても差支えなからうと、これらについての詳細のことは先般の質問において申述べておきまゝたからここでは省き

ます。これは誠に複雑な計算である――複雑な仕事でもあります。――か――医療費にかかる人は長期の病気の人が多いんでありますからこゝをいろいろ研究――してそういうふうに行――得ると――ますとこの保険料の軽減をきたす。ひいては貧困者を助けるゆえんにも相なる。すなわち一石二鳥という恰好になる。こういうふうを考えるのであります。

対策の三と――ま――てはやはり疾病の予防ということがどうしても必要である。それで保険の給付費と施設費とはやはりそれとそれ相まって万全を期さなければならぬと思う。それが給付費においては二千九百二十万である。これに対する施設費においては五十二万が計上してない。これでは手のつけようがない。こう思うのであります。保健婦をみましてもただ一人であります。保険婦につい

ては三分の一の補助がある。もっと保険婦を増員いた
—ま—て各地区を回り—て公民館あるいは婦人団体
社会教育面との連携を保って保険思想の向上に極力努
むべきものと考ええる。

もうひとつモデル地区を設定する。予算を重点的に
注へ—ま—て保健管理を充実—あ—らゆる点から罹病
率の低下を図—ていく—て—てその結果を全体へ普及
させていく—という点もとるべきものであると考えます。

それから各種の統計に力をいた—て行かなきゃならぬ。
いずれに—ても仕事をする根本をなすものは確実なる
統計そのものにあると私は信ずるものであります。先
般要求いた—ま—て配られたあの表をみ—て各地
已の受診率 徴収率—というものがわかり—た。さらに
—歩推—進め—て一件当りの医療費を算出—てみる

と点数が多くて一件当りの医療費が少額であつたならば早く医者にかかつて短期でなおりたいという証左であると思う。すなわち保健をよく利用してくれたとみます。

一かゝながら点数も多くて一件当りの医療費が他と比較してとくにかさんでおるといふようなところにおさまることはとくに異なる原因があるはずであります。

これらは十分調査しなくやならぬ、こつた例もみまいて統計というものから徴し、まゝて対策を講ずべきものであると考えるものであります。

以上の施策から一見しますと予算が増嵩するのではないかと考えられますが、一かゝながら保険料の徴収率が上昇して行きますときには先般の説明にありまゝたオ一方式によるところの国庫補助金も期待し得られる。なおまた保健婦等の活動によりまゝて罹病率の

低下をきたす。従って保険給付の減少にもなる。こういうふうな考えられる。給局実質的に利するところが非常に大である。予算が少く膨張するけれどもそれを補ってあまりあるものがあると考えます。この保険の件はただいまにおきまゝでは非常に市民の関心も高まっております。市長はいま少くくこれに力を注いで相当の対策を講ずべきものであると私は存するものであります。ここにひとつの意見を述べまゝて市長は果してこういう施策を講ずるや否や、これをお伺いいたしましてこの質問を終りたい。やがてくば親切に誠意ある御答弁をおねがいいたします。

(市長田村利男君登壇)

○市長(田村利男君) 嶋田議員にお答え申上げます。
人件費についてでございますが人件費の増嵩対策と

—まゝして事務の機械化を圖つてはどうかという御質問でありますが誠に同感でありまゝして本市におきましては各課の行政上の事務改善を圖るため種々科学的な検討を加えておりますとともに現在戸籍課におきまゝしてはリコー器 青い写真機でございます。

保険課におきまゝしては宛名印刷器 その他計算器、輕二輪等の購入をいたしまゝしてこれが機械化を圖り事務管理の簡素化に全力を注いでいるわけでございますので遠からず御期待に添ふことができると存するわけでございます。

つぎに保険料整理に力を注いではどうかという御意見でございますが、滞納繰越分の保険料整理につきましてもお説の通りゆるがせにはできませんので課員に鋭意努力するよう指示を与えております結果滞納

は逐次整理されてあり收納率は非常に向上してきた次第でございます。

オニと一まゝして御指摘の保険施設の拡充のことにつきまして御趣旨の通り国保事業の重要な事柄であります。がこれが拡充する用意といた一まゝしてそのうちのひとつであります。が保健婦を二名あるいは三名なり増員一まゝしてまたこれに伴い諸機械を購入することは現在の苦しい国保財政の上にさらに人件費物件費の膨張となることであります。ので一応現状の保健婦を二名に増員することに集団指導なり給付率の特殊地区における原因の調査およびその結果対応する保健指導など医療統計に基づき保健婦活動を十分に生かすことと除々にこれを充実していきたいと考える次第でございます。

いずれに――まゝでも国保事業と申しますものは日本の国家的事業でありまゝて国家はいたずらに社会保障制度の名のもとに国保の万全を記っておりますけれども決して国自身はできません。そのミワ寄せは館山市の方へもきておりますので館山市といた――まゝではできる限り皆さまの御期待に添うべきこんど努力するつもりでございます。

○三五番(嶋田 繁君)いま市長のありふれた答弁であります。予算がふえていくというふうなことを申さいます。私が最終に申し上げました通り相当の増額が生じてくると思います。文入においても生じてくると考えます。かういふの点をよくお考え下すってねがわくば私がいま述べた――たせめてそのくらい施設の講じてやってもらいたい。これをもう一回市長に要望いたします。

○市長(田村利男君)御質問の点は良くわかりました。館山市におきましてはさらに徴収率を高めますときは百万円ほどの交付金があることになっております。―この成績を挙げるということは非常に困難なことでございます。―いつかの御説明にも申し上げたと存じますが本更津市のごときは館山市よりはるかに国保事業に先べんをつけた都市でございますけれども大きな都市と申しますか、小さな町村とは違いまして徴収率の向上というものがなかなかできませんで百万円の給付金をもらうようこんご努力するつもりでございます。

○議長(石井潔君)ついで三十二番議員望月暉作君御登壇をお願いします。

(望月 暉作君登壇)

○三十三番(望月 暉作君)私が通告質問におきまして里見城の復

元要するに観光施設の面と行政面の質向上を主としてあります。まずこの点につきまゝてはなるべく省署にて質向上たいと考えております。まず市長は産業の開発につぎまゝて声を大にしていつもいっておりますが昭和三十三年度の当初予算をみまゝたときにこゝと目新しいといふところの施策も現われておりません。従いまゝて市長は熱意に欠けておるものとかように考えるのであります。

つぎに予算に計上してありますところの商工会議所の物産展示所の新設に対する補助金につきまゝて市長さんにお答えねがいたいのでございます。

この商工会議所併設の物産展示所は工費二百万円をもつて商工業の振興のためにせむとも本年度中に実現したいとかように会議所あるいは商工業者は等しく希

望しているところでございますが本年年度の予算をみ
ますると補助金としてわずかの三十万円だけ一か計上
してございませんがこれは展示所の問題につきまゝて
は大体ほかの先進都市におきまゝては市直営のもの
が多い―また商工会議所に併設の陳列場もしくは展
示所があるのでございすがこのは一日も早く実現して
商工業の発展を期せなければならぬ問題でございす。
この展示所の件につきまゝては先般の市の議会におき
まゝて採択はいたしまゝた―まゝと前市の会におき
まゝても採択されておるのでございす。三十万円の補助
金ではどうにもならない。かように考えるのであります。
また市税の相当の負担を考えまゝるときに商工業者の負
担はかなり大でございまゝてよく市内の商工業者の会
合のたぐいに私どもは市税を相当負担しているがそれに

還元する。要するに商業振興発展の予算はいつも少ない。そういう声をよく聞いておりますが、私もそのように考えておりますからこの点商工業の発展のために一段の御努力をおねがいしたいと考えております。

なお先ほど申し上げましたが陳列場展示所の補助金につきましては私は三十万円の補助金ではないと考えておりましてこれを追加予算かなんかであると考えておりますがこれはどういうふうに追加予算でとすつもりかと出すと一たら総補助金額はどのくらいでやっていくかこれをお伺いいたいたいのであります。なお現在できております商工会議所は購入と内部施設の関係で大体三百万円かかっておりますがこれは商工業者の負担でございまして市から補助金は一銭もい

たゞいておらないような状態でございますのでこの
たびの予算に計上いたしました補助金につきましては格
別な多額の補助金をぜひ支出してやってほしいという
いうふうに考えております。

つぎに里見城の復元でございますがこれは観光面の恒
久的な施設として昨午市会で採択されましたが先ほど
松本議員からも質問がございました通り今年度の予
算には全然ない。これに対する答弁は市長からさきま
したぐさこういう観光面に対する恒久的の施設について
はおそらく各都市にも計画中、あるいは現在あると
考えております。これはすなわち外來客を相当誘致
するのと商工業者はもちろんでございますが農業
者あるいは各層の市民の利益福祉が伴うものでござ
います。ぜひともこういう事業をこういう計画

で早く実現するならば、館山市の財政もかならずよくなるんじゃないかと考えておりますので市におまゝ——では熱意をもってこの早期実現を願つてもういたいことを要望いたします。

つぎに消防教育の施設について地元負担の軽減の問題でございますが、教育予算の件につきましても先ほど伊勢議員からの質問もございまして、この点も簡単に申し上げますが、市長の当初予算の施政方針のなかに需用費を二割増したから内容的に充実したといっておりますが、これは市長がみた目にはなるほど充実したと考えるかも知れませんが、需用費の二割くらい増額では大したことではない。また営繕費その他の設備につきましても教育の万全を期する意味から義務教育でございまして、相当な努力をしてもういたいことを要望

います。

つぎに消防の施設でございますが地元負担が消防施設につきまゝでは相当大きく今回の方針も二分の一要するに半額の負担だというふうな説明でございますがこれは防火の完璧を期する上から当然市がその経費全部を持って市がすべきではないかとかように考えておりますが市の財政上も勘案いたしましてもっと市の負担を多くして少なくとも三分の二以上の負担をして地元負担を相当大幅に軽減すべきじゃないかとかように考えております。市六万市民の防火に専念してもらいたいとかように考えております。

つぎに塵介焼却炉の問題につきまゝでございますが塵介処理につきまゝでは当初予算に運搬トラックを

購入して収集にはよいのでございますが、その焼却につきまゝて完全な焼却炉の設置がないのでございます。これは先般市長から説明のときに焼却炉と避病者は目下研究中であるとかように申されておりますがこの焼却炉につきまゝては毎年、毎年同じことを繰返してゐるやうに私の身には入っております。これは早く実現する方法を考えなきゃならぬとかように思ふのであります。完全な焼却炉がないために塵芥置場は山積りまゝでとくに夏季等におきまゝては臭気を発してまたハエなどの発生を助長するといふやうなことでございましてその置場付近の住民の迷惑はなほだといのであります。これは環境衛生上から考えまゝても誠に遺憾でございまして積極的に実現していただくたいのでございます。これは一体いつごろになるか

どういふふうな構想を持ってやるかお伺いいたします。
つぎに避病舎の件でございますがこいも目下研究中
ということでございますが現在の避病舎は老巧でござ
いまして設備等も不完全でありますのでよほど
前の話ではたしか市長のお話—と思いますすが三
茅村その他近隣の町村で組合立にてつくった各
うば理想的な建設ができる。—かも国の費用と果
費で大部分がまかなえるんじゃないかと聞いておりま
すがこの研究中という市長のことばについてどう
いうふうに建設するかいつごろかいままで長い間の
懸案でございますのでおせうく市長と—ては具体
的な案をお持ちであろうと考えておりますのでこ
の点も合わせてお伺いたい次でございします。
大体私の質問甲上げましたのはその予算が問題で

ございますが市におきましては入を過大に見積るといふことは不健全な予算でございますが、カーナウ兄貴を節約いたしましてまた市税におきましても昨年と比較一まゝて相当幅があると要するに過少に見積つてあるというふうに考えておりますのでおそれなくさんで追加予算等ができるかと考えておりますのでこの入の面で考えましてぜひとも実現不可能のものではないと思ひますので市長さんからはっきりした御答弁を伺いたいでございます。以上でございます。

(市長田村利男君登壇)

。市長(田村利男君)望月議員にお答え申し上げます。最初に産業に対する諸施設に目新しいものがひとつもないという御意見ですがよく予算書を見ていただきますと思います。

つぎに商工会議所の物産陳列場に対する補助金でございますが本年度といたしましては三十万円を計上したわけでございます。去年十万円のこと—三十万円全額百万円のうちあと六十万円でございますが昭和三十四年からのことは申上げられませんが大体本国会頭と二人でお話いたしましてその結果大体そういう線でございます。ただければ結構でございますということでございます。ましてそのように計上した次第でございます。

なお商工業に対する振興予算に目新しいものがないというお説でございますが私は大きく考えまして館山市の当初予算が全部商工業者の振興予算といっても過言ではないと考える次第でございます。

つぎに城山の観光施設についてでございます。県立公園事業としまして登山道路を実現しておりますがこ

の計画は昭和三十一年度三十三年度継続事業として
延長五百九十五メートルでございます。三十三年度の分は
不日着工の予定になりまして地えもすでに了解済でござ
います。市の事業というよりは登山道路に接続
する遊歩道百三十五メートル 鉄筋コンクリートの手す
り三十一メートル 各種施設物の修理であります。こんごも
市見をもって設費の完備に努めたいと考えており
ます。

里見城の建設規模は三層四階建 延百四十坪程度のもの
でございます。鉄筋コンクリートづくりといたしましてい
う希望を持っているものでございます。この里見城を核
幹といたしまして各種の施設を完備し観光事業の飛
躍を図りたいと考えております。一かこの事業完
成のためには市民の熱意後援が望まれますのでこ

の熱意盛上げになお一層市も努力いたしますので御
協力賜わらんことを切望いたします。

つぎに消防問題でございますが消防施設に對し地元
負担軽減をとの御意見でございます。

消防は公設機関であるから本来なら全額市費で負担す
べきものであります。一か一ほとんどの市町村が財政
の都合で三分の一または三分の一程度しか出していないの
が実情であります。当市では従来三分の一市で負担し
ていまいたが消防団改変後は二分の一に増額さし
まゝで、政府の諸向に對し、まして消防審議会は公設消防費
の二分の一を国でもち消防税を賦課してその充實を図る
べきであるという答申をしていられるようでございます。

地元の経費軽減につきましてはこの答申案が実現し
たあかつきに具体的に考究いたしますが目下の財政状

態では二分の一程度より上昇させることは困難と思ひます。望月議員は需用費二〇％増では少いという見解でございますがこれは見解の相違でございます。すので私は二〇％増額したということとを申上げます。教育施設については全額市費で負担するのが建前ではありますけれども現在の市財政をもつてしては普通教室以外はまだ全額市費負担は無理でございます。故に講堂の建設につきまゝては地えで三分の二程度の負担をしていただきたい。このように考えております。

つぎに焼却炉の問題でございますが避暑地観光地としてとくにその必要を認め可及的早い時期に設置する意向のもとに構造、大きさ、場所などについては目下調査研究中であります。が設置に対する暫定措置

といふ――まして本年度は機動力により昭和橋から約百メートル下流の官有地に適当な捨場所がありますのでそこを捨てる計画のもとに交渉をたづねております。

つぎに隔理病舎新設であります。新設に對しましては設置の條件が厚生省で指定するものに適合しないと補助金の対象とならず現在のところいろいろ苦慮しておりますけれども将来的に三芳村、高瀬町、三者合同で新設したい構想を持っております。

以上望月議員の御質問にお答えいたしました。

。三三番(望月暉作君)こまかい矣についてはいづれ質疑応答のときにお伺いしますが市長さんはいま展示所の補助金について百万円というお話でございますが、一かも三十

四年度以降はわからないということでありましたが三十三年度中はその補助金を分割して補助してくれる。そう解釈してよろしいですか。会議所としては今年度中に設立しようというふうな状況でございますのでその点おねがいいたします。

○市長(田村利男君)　こういうことをいっていいか悪いかわかりませんが、先般本町会頭と会見しました際に百万円の補助金をもらいたいと十萬三十万円は三十三年度に充ててあとの六十万円も約束してもらいたいというわけでございますが三十四年、三十五年は私の任期外でございますのでお答えすることはできませんということと、三三番(望月暉作君)百万円というのは結局補助金は百万円ということははっきりしているんでできれば任期中にその総補助金を追加してもらいたい。

○市長(田村利男君)望月さんはそのような御希望でござい
まーまうが会頭さんは鎌山市の財政も無理だろうか
ら三十三年に三十万円もらいたいということをはつきり
申したわけでございます。従いまーてあとの二年間の
ことにつきまーては答弁の限りでありますので遠慮
いたします。

○議長(石井潔君)ーばらく休憩いたします。

午後二時十分休憩

午後二時三十分開議

○議長(石井潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

○議長(石井潔君)ついで十番議員田中禄郎君の通告の第一項
に結構改革についてという一項がありますかこれはこれ

は本人の取消し申出がありましてたので報告申し上げます。
十番議員田中禄郎君御登壇をお願いします。

(田中禄郎君登壇)

○田中禄郎君 私は都市計画事業ならびに都市計画税
について簡単に御質問いたします。

昭和三十一年度より都市計画税が徴収いたされました。こ
れに對しましてこの事業がおこりました。都市計画事
業が著々進んでおりますことに對しまして非常に喜ば
しい結果と思っております。一か一ながらこの都市計
画税というものは固定資産税の二重徴収というような
形でございまして市民一般の方たちはこの都市計画税
なるものがどんな性質のものでありますかとまたどう
いうためにこれを使われるものであるかということと
非常に疑問に思っておりますのであります。この疑問を

速かに解消いたしましてはつきりとするのか、市当局の市民に対する責任であります。またこれに伴う義務でもあると思つたのでございます。都市計画事業と申しますのは、~~都市~~^{土木}事業、失業対策事業と非常にと混同しやすい仕事でございまして何を都市計画事業でやってゐるかということがはつきり市民の方たちにわからないのが現情があるのでございます。

幸いに私たちはこの予算書中の各款説明におきまして辛うじて何が都市計画の事業であるか何が土木事業であるかということとを了解する程度のものでございします。現在まで都市計画事業がその目的によりまして行われておりますのは都市の事業でございまして結局農漁村地帯にはなんらこの直接関係のある仕事が多くなされておらないのでございます。

るにかかわらず周辺地区はばく大なる都市計画税と
いうものを納めておるわけでございます。どんな仕
事をするかわからないところえ税金を納めるのでござ
いますからますますわからなくなるのは当たり前なん
でございましてそれによって延滞が非常に多いとい
うことがでてくるんじゃないかと思ひます。この都市
計画税を賦課するときに議会でもって市長さんはこ
れは館山市の赤字財政再建のために好むと好まざると
にかかわらずこゝを徴収するということをおっしゃつた
と記憶しておりますが私の質問といつてますのはお
一桌といつてまいりて大体三十二年度にはすでに市当局
の御努力によりまして黒字をまいておるつでございま
す。その余波を受けまして三十二年度もおそらく黒字
になるんじゃないかというふうな市長さんの見通しと

思ひますがこいによりましてもうもこのが黒字
になりまして市長さんにおかひましてはこの都市
計画税を廃止する意思がございますですか。

オニ矣といましてこんご都市計画税を廃止しない
といましてならば農道村周辺の地になんらかこいに
プラスすべき工事をしていただかなければいけないと考
えるものでございましてその工事をどういうよう
な工事で何年ごろからおやりになるかこれもお
伺いしたいと思ひます。

オニ矣といまして都市計画税はあくまで
目的税でございまして目的遂行のために使用する
ものであると私は考えますが三十一年度の決算
にあきまして三十六万なびーというふうな繰越金
がでておるのでございまして。三十一年度にあきま

二 倉山市議
ても相当の繰越金があるものと認められますがその繰越金の処理につきまして翌年度繰越についていかなる処理を以ていらつてやいますか、この三點をお伺いして私の質問を終りたいと思います。

(市長 田村利男君 登壇)

。市長(田村利男君) 田中議員にお答え申し上げます。

館山市は現在都市計画税を全体から徴収しておりますが都市計画事業は都市計画区域内からの街路、水利、公園、下水道の工事でございます。そして公共の安寧を維持しまたは福利を増進するために重要な施策を行うわけでございます。これらの工事を行うときは果にございまして都市計画審議会に議案を以てその議決を経まして建設大臣の許可を得てはじめて施行されるものすなわちこれが都市計画事業なわけでございます。

この都市計画事業は都市に重点が置かれていることは仰せの通り事実でございます。合併後の情勢より考えますとはなはだ不均衡のように思われますので都市計画税徴収以後は市におきましては努めて農村方面に對しまして路面補修あるいは砂利の量もふや—また橋梁の補修等にも万全を期しているわけでございます。失業対策事業によります道路改修工事および市単独の改良工事、農村振興のための土地改良事業などこれらを併用いたしまして農村地域に都市計画税による工事の埋合せという言葉はおかしいのでございますが不均衡を是正するよう努めて参りまゐりました。

新年度予算におきましてもこの点を十分勘案いたしました。土木費のうちの工事請負費三百七十九万円は都

市計画税徴収前の昭和三十一年度に比し、まして三、七倍
原料、材料費におきまして百二十万円、これは三、三倍の
経費を計上してあるようなわけでございます。土木
施設の維持管理の万全を期している次才でございます。
かようにいたしまして逐次計画を推進し、都市計
画による施設を農村方面にもおよぼし、税の均衡を圖
りたいと、こういう所存でございます。田中議員の黒字
になつたら、都市計画税はとらないかという御質問に
対しまして、残念ながら、ただいまの情勢では都市計画
税は現情通り継続して行きたい。このように考えてあ
る次才でございます。

また三、五といつまして三十年、三十一年度の繰越三、十六万
七千三百八十円があるわけでございますが、これを不要額と
しまして、もう国家へ返上するようないふことがありまして、た

場合にはこんごの予算獲得の上に非常な障害をきたしますので繰越一の処置をとったわけでございます。昭和三十一年度事業としまして千二百万円、三十一年度繰越額を加えて千二百三十七万三千八百円に予算をみたわけでございます。以上お答え申し上げます。

○二番(田中祿郎君)三桌につぎましてただいま市長さんは三十六万にがりの金を繰越金にいたということをおっしゃいました。が三十一年度の決算報告によつて繰越金ということははっきりわかっております。でございますがこの処理の方法でございますが果して三十一年度にこれだけのものが残ったと三十一年度の予算書へ載せるべきもんじやないかと考えるもんでございますが、その桌いかがでございますようか。

○市長(田村利男君)建設課長をして答弁いたさせます。

○建設課長(新井重助君)お答えいたします。

三十一年度で三十六万七千三百八十円は三十二年度に繰越すことにいたしました。これは決算において認められまして決算書にも書いてあります。三十二年度の予算に計上しなくてもよろしい。別会計といたしまして処理いたしております。三十六万七千三百八十円は三十一年度の工事の継続といたしまして現在施行しております。以上でございます。

○一〇番(田中禄郎君)どういたしますとこの三十六万にばかりという金は予算以外の金ということでございますが、建設課長(新井重助君)三十二年度の予算には加えずに処理しております。以上でございます。

○三十四番(飯田義男君)いまの土木課長さんの発言に不審な点があるんですが別途会計という意味がわからない

んですがもう少し詳しく説明していただきたいです。
○建設課長(新井重助君)事業の性質上三十二年度に金は繰越—いた—ま—たがあくまで三十一年度の事業でございしますので三十二年度の予算には計上—ません。以上でございします。

○三四番(飯田義男君)どう—ま—すと繰越—た金は実際には三十一年度事業によって消費—た—という形をと—たわけですか、事業をや—て—ま—たんだ—という—to—に—て別途会計でその繰越三十六万—という—to—をと—たわけですか。

○建設課長(新井重助君)実際の仕事ができなくて繰越—た—のであり—ま—て—できた—という—to—にはな—て—あり—ま—せん。三十二年度で継続—て—や—て—あり—ま—す。

○市長(田村利男君)関連がありますので御説明申上げます。

昭和三十一年度で都市計画事業を――残した分が三十六万七千三百八十円ありますが、これは自治法オ二百三十六条の二によって議会の議決を経て三十二年度に繰越して使用してあるわけでございます。これを明許繰越といひまして予算に計上する必要がなく収入役のもとで支出し三十二年度の決算で報告すれば、良いことになつてゐる。こういうわけでございます。

○七番(嶋貫壮作君) 条文をひとつ読上げていただきます。

○総務課長(完戸貴君) 読上げます。

自治法オ二百三十六条のニオ支出予算の費目の中、その性質上又は予算成立後の事由に基き年度内にその支出を終らない見込みのあるものについては、予め議会の議決を経て翌年度に繰越して使用することができるとある。

○七番(嶋貫壮作君) 予め議会の議決を経てということが

あるんですがちよつと失念してたんですがいつ議会の議決を経ているかそれをおっやっていたのださうだ。

○総務課長(兒戸貴君)なお関連の条文を読みますが施行令の百五十六条の二でございます。地方自治法オ二百六条の二の規定により翌年度に繰越して使用しようとする支出予算の費用については当該費目に係る支出に充てるために必要な金額を当該年度から翌年度に繰越さなければならぬ。二項といふ一より普通地方公共団体の長は自治法オ二百三十六条の二の規定により翌年度に予算を繰越した場合においては翌年度四月三十日までに繰越計算書を調整し次回の会議においてこれを議会に報告しなければならぬ。三項繰越計算書は命令で定める様式に準じてこれを調整しなければならぬ。さういうことになっており

まゝして三十二年の四月……ちよつとただいま手許に議決書がございませぬのでは、さういたしません。四月三十日まで繰越計算書を作りまして三十二年中に開会せしめて議会で議決してあります。その日付は、さう確えておりません。(ア)てるまゝあとで調べておいて下さいと
呼ぶ者あり)

○議長(石井梁君)つづいて二十三番議員福岡保徳君御登壇
壇へおいします。

(福岡保徳君登壇)

○三番(福岡保徳君)私は総合計画の樹立について当局にお聞
けたいと思います。

館山市が赤字財政を克服して誠に慶賀すべきことであります。が手ばなりの樂觀は、さうめて禁物であり、大企業会社に乏しい館山市が財政的に真になすべき事

業を多々有いながらこれを実施しないが故に辛うじて赤字をまぬがいているとこれは三十一年度の決算書でわかる通りに収入予算額を二億六千九百にがーを盛り実際の収入額は二億五千五百にがーで差引き収入の減が一十三百五十二万強もあります。

また三十三年度の予算の人員費においても例年のごとくではあるが臨時関係を除いても八百八十九万増の自然増旅費においても七十四万円の増加であり考慮すべきものがあると思うので総合計画の樹立とこれに即応する施策の実施を要望するものであります。市の財政が不裕であり貧困であるにかかわらず飛躍するがためには年次計画にのっとって根本的な財政措置をするのがもっとも適当であると信ずる。例えば教育費については校舎の改修費は総額どのくらい必要

です。かまたこいを措置するにめには市の財政から勘案して何年計画で完成するのがもっとも妥当であるか。また土木費においても市長の施政方針による甲斐へき地は回らないところの道路側溝丸山ダム等の完全実施の年次計画による見通しまた観光方面の充實を回るといふその計画とこのような計画はあうゆる事業に該当すると思ひます。一かいてそこに総合的な年次計画が生まれてこなければいけないと思ふ。そこで事業予算はかかる年次計画の大方針に従って編成さへべきものであつて断いてその場限りの行きあたりばつたりの編成であつてはならないはずであります。三年後あるいは五年後における見通しを樹立することは折角赤字財政を克服したという鑑み市にとりももっとも緊急を要する市政の根本方針である

と信ずるものであります。この点について市長の施政方針が明確を欠くように思いますので再度市長の明確なる見解をお聞きたいとします。以上。

(市長、田村利男君登壇)

。市長(田村利男君)福岡議員にお答え申上げます。

最近市町村の組織および運営の近代化ということがいわれるようになりまして、国においても先に市町村の合併を促進してきたがさらに新市町村建設促進法によりまして建設計画の調整について積極的指導を行うことになりました。それはまず科学的な基礎調査を実施いたしましてこれらの資料に基づき新市町村建設審議会が市長の諮問に応じまして総合年次計画を建てることになっていきますので本市としましては昭和三十三年度において基礎調査に出す

予定でございます。法律に基きこれらのものが具体化するまでの間は一応施政方針で述べております通りエホ産業教育を重点的に考慮して行くつもりでございます。さらに校舎とか道路とか明細なる完成時期見通しというふうなことでございまして校舎の改修計画は教育委員会において樹立いたしまして着々実行に移しておりまして昭和三十四年度におきまして一応整備を完了する予定でございます。また丸山ダム等につきましては見通しはなはだ困難でございしますが三月の十一日だったか全部の調印が百分之完全いたしましてたのでこんご六七年のうちには完成するのではないかという当時の意見でございまして、以上御説明申し上げます。

○三番(福岡保徳君) どううりますと三十三年度に基礎調査を

てこれから樹立するんだ、こういうふうに聞いてあります
すがそのようですよーうございますか。そうであれ
ば三十三年度の予算はある程度の目的をもって
組まなければいけないと思いますが市長の言による
と三十三年以降はまだ考えずに予算を盛ってあるよ
うに考えられますがそのようですよーうございま
すか。

○市長(田村利男君)そのようではございません。あくまで
大綱につきまーてはひとつの関連をもってあります。
(了承ーますと呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)ーばうく休憩いたします。

午後三時四分休憩

午後三時十二分開議

○議長(石井潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

○議長(石井潔君)つづいて二九番議員遠山ヨネ子君御登壇
壇下がいます。

(遠山ヨネ子君登壇)

○二九番(遠山ヨネ子君)私は社会教育のことについて質問させていたできます。

要旨は三つ上げまーたけれどもオーとオニを一緒に質問させていたできます。

婦人会は社教関係が非常に多いんですから社会教育課が非常に骨を折って社会教育の仕事を一々いっらーやることはよくわかるんですけれどもまたその効果を上げるために随分苦勞していらっしゃるやうでございますがいつも人員構成に非常に無理があるように感ぜられるんですが先に予算に計上され

ている分館長さえもまだ任命されていません。社会教育の面ばかりのことにはよくわかるんですけどもこの点で社会教育が実際に効果をあげているかどうか疑問です。かうこの見解を教育^長さんにおねがいしたいと思います。つづいてこの前田村議員が質問なされてはいますが社会教育委員は諮問機関だからといい切ってこの条例によって送出せなければというふうではとくに社会教育という大事な仕事であるが故にこの条例だけで送出せれるということに疑問を持つものでして旧市内の市街地のようなところはいま甲上げたように分館長がまだ任命されていないというところにもそういう点があるのではないかと思います。それに対するお考えをいただきたいと思えます。

つぎは清掃条例のことについてでございますが市長
のこの間の施政方針でもって塵芥処理上のことについ
てはよく了解できまゝなけれどもその施設をする前に
清掃条例を布かないと結局市の親心が市民に伝わり
ないでその効果を上げることがあらずかーいんいやないかと
思いますのでやっぱり市民にも責任を感じさせる意
味で条例を早く布いていただきたいと思うのです
がそこに書きました清掃条例制定の準備というの
は邪魔ですから抜いていただきたまゝで清掃条例の制
定と期^期これをあ尋ねたいと思います。以上でござ
います。

○教育長(工藤和平君) 遠山議員の社会教育に関する質問に
対してお答えいたします。

三十三年度の社教の目標は道義の高揚以下六項目で

ございますがなかんずくハム民館活動の充実というこ
とが要するに社会教育活動の^根幹であろうかと思ひます。
その社会教育の活動の具体例を申し上げますならば勤労
青年の技術と知識一般の知識を向上させる意味合にお
きまゝですでに通年制と季節的の青年学級の設置が
あったのでありますけれども三十二年度はさらに西岬地
区にも新設いたしまして。それが充実を圖つたわけでござ
います。なお産業教育の徹底という面にも相当
力を入れたつもりでございます。市の農産統計課
ならぬ県の農事試験場地区の農業会等と取組密な
連携のもとに農事に関する講習会を年間約百五十
日程度実施しております。さらに三十二年度におきま
しては文化財の保護条例をこの議会において決定し
てこれらに対する大きな税割を渡したつもりでございま

す。なお社会教育課におきますところの仕事が一般社会教育の仕事と青年学級に関するものと公民館●に関するものと図書館に関することと体育に関することかような多岐にわたります。これに対する職員構成は課長以下主事が四名雇が一各でございます。そしてそのなかの一人の主事は庶務の建築の方も兼ねておる。かような現情でありますので市予算に對しましてはこの点を勘案して専任の技師を一名増員をおねがいいたします。

最後の御質問でありますところの社会教育委員の専任方法でございますがこれは社会教育のオ十五条にのっとりまして当該市町村のなかにありますところの学校長も々と具体的に申しますならば高等学校長あるいは小中学校長から各一名社会教育

に關する各団体例えば婦人団体、青年団体、P.T.A. 文化団体、体育協会、こういうものから各一名さらに学識経験者、これが問題なんです。が学識経験者と申すまゝでもやはり社会教育に關する学識経験者という意味合ひにあつて先ほど申上げました学校長ほかかかる団体によつて推送されたものを私どもは学識経験者と申すのであります。かような人々の中から選ばれたものを地区の分館審議委員会でさらに検討いたします。そこで決定したものを館山市社会教育審議委員会というものがございす。が、これにおいてさらに選任をいたしまして、それが教育委員会に推送をされて決定をする。かような段階になっております。

(市長田村利男君登壇)

。市長(田村利男君)遠山議員にお答え申上げます。

清掃条例の制定の準備時期いかんというわけでございますが特別清掃地区として条例を制定した場合には市もそれに対してまゝて体制ができていないわけはならないのでございます。すなわち焼却炉の設置その他いろいろな準備ができていなければ清掃条例を制定したまゝても無駄になるわけでございまして市といつては焼却炉と同時に設定したいと考えるわけでございます。先ほども申上げたと思いますが焼却炉の設置ということとはただいまの館山市とまゝて八百万円全額館山市負担というふうな状態でございましていまだにばらくその件につきまゝては考慮したいと考えているわけでございます。

。議長(石井潔君)以上をもって一般質問の通告者は全部終りまゝです。

この際先ほど十七番議員の質問に対する答弁保留が一件ございますので答弁をさせていただきます。

。総務課長(兒戸貴君)千前中七番議員から御質問のございまして税外方へのこんごの収入見込について申し上げます。

見込みといふまゝでは合計三千百七十四万九千円くらいあるだろうという見込みでございます。その内訳について申し上げます。(内訳はいいよ)と呼ぶ者あり)さうきの繰越議決の年月でございます。

繰越使用の議決をいたしましてたのが三十二年の三月二十五日で繰越計算書の報告をいたしましてたのが五月二十二日の市会でございます。以上でございます。

○議長(石井梨君)この際お諮りをしてゐます。

今日の会議日程に議案オ二十三号ないーオ三十三号予算案の質疑応答となつておりますが今日はこれをもちつて日程を終り予算案の審議は明日にいたしたいと思います。ますがこれに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井梨君)御異議なしと認めます。よつて会議日程は変更さいます。

○議長(石井梨君)こゝをもちつて今日の会議を散会と一今回は明十八日午前十時開会といたします。その議事は予算案の質疑を行います。どうも御苦勞さまでございまして。

午後三時三十五分散会

